

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800678	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	医療法人 活人会		
事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう		
所在地	(224-0034) 横浜市都筑区勝田町651番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアマネジメントの取り組みにおいて、アセスメントやケアプラン作成・モニタリングの際に、ご家族(参加できる方は入居者自身)に積極的に参加していただき、入居者の現状と一緒に把握しています。このことにより、現在の入居者ご本人の生活における希望や意欲・可能性・課題などに対して一緒に考えたり、支え合う体制を心がけています。入居者の生活を支えるのは、スタッフだけではなく、ご家族や入居者同士の協力が不可欠であることを大切にし、また入居者より様々なこと教えていただいたり学ぶ機会といった支えられている部分も多くあります。お互いが支え合い楽しく暮らしているのが、「横浜ゆうゆう」です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和4年2月8日	評価機関 評価決定日	令和4年4月13日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、東急東横線綱島駅と、市営地下鉄センター南駅からバス便が利用でき、最寄りのバス停から徒歩10分程の場所にある。鳥が飛来する川や、新しい住宅や畑、雑木林、小さな工場などが混在する自然豊かな環境がある。広い敷地内に菜園や花壇、果木があり、庭の散策も利用者の楽しみになっている。近くに系列法人が運営する介護老人保健施設、グループホーム、保育園、クリニックがあり、地域の医療と介護の拠点としての役割を担っている。 【利用者の個性を重視した自立支援】 一昨年で降利用者の入れ替わりがあり、介護度が低くなるとともに、利用者の年代や経歴なども変化があった。生活習慣や嗜好、趣味なども个性的で、自分の意見や思いを発言する方も多くいる。利用者の個性を重視した自立支援を目標にして、アセスメントを詳細に取りながら、職員で話し合いを重ね、家族や医療関係者の意見も反映してケアプランを作成している。利用者の「今」を大切にして、今ならできる新しい取り組みを常に模索している。 【利用者本位のケアを目標にした取り組み】 認知症介護の指導者的立場である管理者は、職員には常に理念に沿って考えることや、「自分だったら」「大切な人だったら」と考える倫理観を養うことが大切と伝えている。毎月の法人の研修会の他に豊富な研修プログラムや研修の機会が用意され、職員は利用者本位のケアを目標に取り組んでいる。また若年性認知症の職員を雇用する新たな試みもしている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
ユニット名	あすか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より地域に根付いたグループホーム運営を心がけており、近所やボランティアの方々とのお付き合い、行政との積極的な連携をおこなっている。	法人の基本理念として「利用者の人権と安全の確保」、「個々のニーズに応じたサービスの提供」、「地域の介護の発信基地としての役割」をかかげている。法人の理念を踏まえ、開所時にホームの理念を作成した。利用者の人権を尊重したケアの確立に向け、職員会議で意見が分かれた時にも、理念に沿って考えることを管理者は常に指導している。また各「家」（ユニットの呼び名を「家」としている）毎に毎月ケアの目標を立てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、例年は年中行事に参加している。また、運営推進会議や、地域ケア会議などで、地域の現状と課題および相互扶助の関係性を把握している。今年度も感染症対策で町内会催しにほとんど参加できていない。	開所時から地域との関係を大切にして運営してきたが、一昨年以来のコロナの影響で、現状はほとんどの行事や地域との連携なども中断している。利用者が散歩に出た際には近隣の方と挨拶を交わし、地域の商店から食料品が配達された際には情報交換をしている。今年のどんど焼きには職員が参加をした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	都筑区にある認知症サポート連絡会の会員として、認知症に関する普及・啓発に積極的に努めている。また、運営推進会議でも様々な取り組みを報告し、地域へ発信する努力をしている。自治体の認知症関連研修講師などもおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より豊富なアイデアをいただき、自事業所のサービスに反映したり、地域への認知症の普及啓発へ繋げたりしている。今年度も書面開催となり、意見が出にくくなっている。	今年度もコロナの影響で運営推進会議は書面報告になっている。報告書は家族やメンバーの方々に郵送している。意見を頂く欄を設けているが、意見より感謝の言葉が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポート連絡会などで密に連携を取り合い、事業所だけでなく地域単位で認知症に関するさまざまな取組みをおこなっている。自治体の認知症関連研修講師などもおこなっている。横浜市認知症施策検討委員会に職員2名参加している。	管理者が認知症介護指導者として行政や関連団体の講師をしている関係から、行政職員とは日頃から意見交換などの機会が多い。認知症デイサービスの運営推進会議の委員を受け、協力関係を構築している。数年前から若年性認知症の職員を雇用し、その方と管理者が市の認知症施策検討委員会に参加している。また、生活保護受給者には、区的生活支援課と連携を取り支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しない取組みを積極的におこなっている。また、常に会議などで理念に基づき話し合いを持っている。3か月に1度高齢者虐待・身体拘束廃止委員会を開催している。	管理者、計画作成担当者、計画作成担当者補佐が委員となり、身体拘束廃止委員会を行っている。日々のケアの中で生じがちな「ちょっと待ってください」は利用者に理由を告げ、「待たせてごめんなさい」と相手を思う気持ちを伝える対応をしている。入居後、医師の判断で睡眠薬を減薬した方の転倒が減った事例がある。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、内部では職員会議、事故報告書などで常に虐待に繋がらないような話し合いをもっている。職員間のチームワークを大事にしている。3か月に1度高齢者虐待・身体拘束廃止委員会を開催している。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を同時開催している。神奈川県の高齢者虐待防止に係るチェックリストを用い、よくありがちなケアの例などを抽出して検討している。嚥下に問題がある方の水分補給で、利用者が飲まないからすぐゼリーに変えるのではなく、どんなものなら飲みたいかをまずは尋ねることを管理者は指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念にうたっている通り、個人の権利を常に大切にしながら、職員会議で話し合いを持ち、ケアに反映している。定期的に研修会にも参加している。法人でも入職3年目までの職員に緊急時対応の研修をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接の際・内容の改定の際には、必ず説明し、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の様々な意見などについて迅速に対応したり、運営推進会議にも参加していただいている。ご家族は面会時・家族とのカンファレンスの際などに意見を伺い、運営に反映している。	家族の面会は、コロナの感染対策でオンラインや窓越し面会など工夫をして行っている。ケアプランの見直しのカンファレンスに家族も参加をしていたが、現在は電話で対応している。毎月「横浜ゆうゆう便り」を郵送して、ホームの様子や行事、健康管理等の情報提供をしている。ブログで利用者の写真も紹介している。利用者の入れ替わりに伴い、自分の意見をはっきり言う方が多くなっている。	一昨年以来の利用者の入れ替わりに伴い、介護度が低くなり、自分の意見をはっきり言う方が多くなりました。ホームの理念を今まで以上に生かす良い機会と捉え、利用者が主体的に考え、活動できる企画の立案を期待します。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画作成担当者会議、職員会議等の場で多くの意見を聞く機会を作っている。法人の会議やグループホーム経営会議に職員会議の意見を報告したりしている。	ユニットごとの職員会議兼ケアカンファレンスを毎月2回に分け開催し、職員が参加している。事前にテーマを決め、意見を集めて話し合っている。職員会議では、夜勤帯の見守り強化のために、業務の見直しを話し合った。コロナ禍で大人数で集まる機会が少ないことでいつも意見を言う方が限られ、意見の偏りが出ていることを管理者は憂慮し、幅広い意見の集約を図っている。職員から出た意見で法人が対応するものは法人会議に管理者が出席して報告している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年次目標に向けての日々の勤務態度などを面接、合同職員会議を通じて把握している。福利厚生などにも力を入れている。人事評価制度を導入している。	勤続5年以上の職員全員にリフレッシュ休暇と旅行券が付与される。遠方より引っ越して来られる方に引っ越し費用の補助もある。有給休暇も時間単位で取れるため、必要に応じた使い方ができる。60歳定年延長や産休、育休制度に加え、系列の保育園も隣接しているため、産休後復帰する職員も多い。クラブ活動や日帰りバス旅行の補助などもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には可能な限り参加できるようにしている。例年は自施設でも全体職員会議などを実施しているが、今年度も感染症対策でできていない。代わりに職員会議を活用するようにしている。今年度より計画作成担当者補佐を配置し、左記に取り組んでいる。	人事考課制度や勤続年数に応じ、昇給や昇格がある。今年度から計画作成担当者補佐をユニット毎に配置した。資格のない職員には、初任者研修の受講を出張扱いにし、費用負担をしている。キャリアパス制度があり、目標を立て受講する職員や、管理者からの勧めで資格を取る職員もいる。介護福祉士合格には祝い金、もしくは受講料の負担が受けられる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や横浜グループホーム連絡会のブロック会などに参加する機会を設けており、地域における同業者などとの良好な関係性の構築に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、入居後も細かい観察などよりご本人の状態をしっかりと把握し、住みよい居場所作りを心がけている。可能な限り複数の職員での面接を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、ご家族の意向などもしっかりと伺うように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接と入居時の状態を踏まえ、早期に生活に慣れていただく事を主眼にケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意欲や可能性などを把握、信頼し、支え合いで暮らしの構築を意識している。職員主導で生活を構築しないよう、利用者の声をより聴いていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と面会時や家族カンファレンス時など多くのコミュニケーションをとるようにして、利用者を中心として支え合う体制を心掛けている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、外出、外泊などを積極的に推進しているが、感染症対策で叶わないことが増えている。玄関・窓越し・オンライン面会を推進している。	喫煙が習慣になっている方や、アニメが好きな方、携帯電話を操作する方など利用者の入れ替わりに伴い生活習慣や、馴染みの物などの傾向も変化してきた。入居期間が長くなるにつれ、利用者同士が互いに思いやることも増えてきた。また忙しそうにしている職員を気遣ったり、手伝いをする方もいる。墓参りを希望していた方がコロナ禍で家族との墓参りが困難なため職員が同伴した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の暮らしにおける支え合いの場面が増えている。職員は状況をみながら関係性構築のフォローをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙などのやりとりで関係性が継続していたり、電話での介護相談、新規入居希望者の相談などを受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基に職員間・ご本人・ご家族で話し合いを持ち、本人本位の視点のケアプラン作成を心掛けて対応している。	アセスメントは居室担当者2名（常勤、非常勤が1組になり）がセンター方式で詳細なアセスメントをし、職員会議で検討している。夜勤時や入浴時の1対1の時の利用者との会話や、利用者同士の会話がヒントになることもある。言葉が出にくい方には「Yes」「No」で聞ける質問にしたり、いくつかの選択肢を示して選んでもらったり、表情で推測することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりバックグラウンドシートを記してもらい、それを基に、継続的なケアを心がけている。入居前に介護サービスを利用されていた方はケアマネに情報提供依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジメントの流れを大切にして、日々の暮らしを支えながら、状態の把握にも努め、新しい発見などを次につなげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメントの流れの中で本人や家族との話し合い、職員同士との話し合いの機会を作っており、意見を共有した中でのケアプランを作成している。	毎月の職員会議を兼ねたケアカンファレンスで利用者全員分のモニタリングをしている。系列の訪問リハビリの理学療法士から、利用者毎のADLの維持にリハビリのアドバイスがあり、ケアプランに反映させている。ケアプランは日中、夜間と分けてサービス内容を記載している。日々の記録はタブレットで管理し、経過記録一覧のサービス内容で実施したことをケアプラン評価としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に力を入れ、誰が見ても状態が把握できるようになっている。また、ケアプランの見直しの際にも大変有効的である。ケアアプリの導入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、様々な社会資源を紹介したり、多世代交流の時間を大切にしたり常に工夫をしている。ニーズに応じたボランティアなどの導入を実施している。感染症対策のため、出来ないことが増えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前より通っている眼科受診、外出などは継続している。感染症対策のため、叶わないことが増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より主治医に関する確認をとっており、ご本人やご家族の希望に沿っている。日頃のケアの気づきなどの情報提供などを随時おこなっている。	法人が医療と介護の協働を運営方針に掲げ、利用者全員が法人の協力医の訪問診療を受けている。内科医、精神科医が訪問している。また、介護老人保健施設の看護師が週1回、利用者の健康管理に訪れている。訪問歯科は、歯科医と歯科衛生士が月1回ずつ治療や口腔ケアに来ている。脳外科などへの受診は、必要に応じて家族とともに職員も同行している。法人の医療機関と連携して、医療依存度の高い胃瘻の方の入居も受け入れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で契約している看護師や診療所の看護師と日頃より連携を持ち対応している。また、24時間のオンコール体制もとっている。より密な連携をとれるよう、情報共有の仕組みなどを検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、入居時の状態を把握していただくよう配慮している。また、入院後は定期的に病状の説明を依頼したり、面会を密におこない、状態を把握し早期の退院につながるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より条件が整えば看取りまでおこなうことを説明しており、終末期においては主治医を含め方向性を定め、多職種連携もおこなっている。継続して方針の共有、課題の抽出に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の対応や看取りの指針などを説明し、終末期と医師が判断した時点で、再度意思確認をしている。医療連携ができていることから、見学時から看取りを希望する家族が多い。看取り時は、区医師会の訪問看護ステーションの協力も得られる手厚い看護体制ができています。また、経験豊かな職員が多く在籍していることから、自信をもって看取り介護にあたっている。利用者は看取りの方の背中をさすったり、また、亡くなった後は自然な形で線香を手向け、花を供えてお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を作ったり、マニュアルなどを作成し、事例検討を含め、会議で確認するなどの対応をし、実践につなげている。法人でも入職3年目までの職員に緊急時対応の研修をおこなっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、昼夜想定避難訓練を実施。法人の災害対策委員会などで自然災害に対するマニュアルなどを作成し、シェイクアウト訓練なども実施している。感染症対策の観点より避難訓練に運営推進会議委員などは参加できていないが、訓練を実施した報告はしている。	今年度は4月に日中想定、10月に夜間を想定した火災の避難訓練を行っている。訓練は、前回の課題を踏まえ、日頃から非常事態に注意をはかり、応用力を養っていくことを目標としている。訓練当日は、利用者も全員参加をして地震発生時のシェイクアウト訓練も実施した。当日参加ができない職員には、後日担当職員から報告と指導がある。非常災害時の備蓄や感染症対策の備品類などの備えもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、また言葉による虐待などにも配慮しながら対応をおこなっている。	利用者個々の人格を尊重した理念に基づき、利用者の人間性や個性を大切にし、自己決定を促すように職員は支援している。ケアに当たり「自分だったら」「大切な人だったら」という倫理観を養うことの大切さを常に管理者は伝えている。利用者の個人情報を含むデータや書類等は、パスワード管理や施錠管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を伺い、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、アセスメントなど「できること・わかること」も把握し、意欲を引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを基に、個々人の生活リズムを大切にしながら充実した生活を送れるよう対応している。職員主導で生活を構築しないよう、利用者の声をより聴いていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を意識し、また整容する効果で、利用者の方が生き生きとされることを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前より嗜好調査をおこない、入居後も観察をしたり、利用者に向いながら配慮している。誕生日会に好きな料理でお祝いしたりしている。調理など出来る方が増えてきており、一緒に調理などをしている。	委託業者からレシピ付きの食材が配達され、職員が調理をしている。利用者も野菜を切ったり、下ごしらえや盛り付け等できることを手伝っている。行事の際は業者の配達を止め、テイクアウトや利用者の好みのものを調理して、食に彩を添えている。「カップ麺が食べたい」との利用者の要望に応えることもある。誕生日や、クリスマス、正月には、パティシエや調理師の経験のある職員が、ケーキやおせち料理に腕を振っている。梅や桜の季節には庭やテラス、ベランダで食事やお茶を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日チェックしている。個別の食形態に配慮している。献立は外部業者に委託。必要に応じ、高カロリーの栄養剤なども導入。水分摂取量はチェックが必要な方を対象に実施し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じた支援をおこなったり、訪問歯科診療のアドバイスなども受けながら対応している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用い、個々人の状態を把握して出来るだけ失敗による不快や自尊心低下の防止・生活保持に努めている。	タブレットや手書きの排泄チェック表を併用し、個々の排泄事情に配慮して、誘導や見守りをしている。夜間は睡眠を優先しているが、起きてきた方には声掛けをして、トイレ誘導をしている。誘導することで失敗が減り、パッドの使用量が少なくなる方が多い。誘導時は、自尊心に配慮した声掛けを職員全員が心掛けている。清潔や衛生面の課題から、5S活動を年間の活動に取り入れ、清潔の保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動など便秘に対して有用で生活の中で工夫できる事を多く取り入れている。看護師のアドバイスなども組み込んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、のんびりと入浴して頂く事を心掛けている。曜日・時間帯の配慮まではなかなか出来ないのが現状である。安全面で福祉機器などの導入も検討も随時している。	入浴は週2回、午後2時から4時までの間で、順番は希望に応じている。また、同性介助の希望も聞いている。浴槽の湯は1人ずつ交換し、その都度入浴剤を選んでもらっている。冬至の時期には、柚子湯週間として入浴を楽しんでいる。要介護度が重度な方はリクライニングシャワーチェアを活用している。浴室暖房機や脱衣場のエアコンでヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にのんびりとした時間を作ったりしている。安眠できるよう午前中の日光浴などを心がけている。また適宜個別に昼寝などもおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用は、医療従事者に判断をまかしておおぎ、観察に努めている。薬の内容や服用後の観察は適切におこなえるよう対応をしている。職員の知識の向上に努めていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを基に、ご本人の意欲向上につながる取り組みを日々おこなっている。個別や集団で楽しんだり、役割を担っていただいたりしている。感染症対策のため、叶わないことが増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のアクティビティなどおこなっているが、感染症対策のため、叶わないことが増えている。	ホームの周辺や、近くの川に白鷺やカモを見がてら散歩をしたり、桜や梅の時期には、系列の介護老人保健施設や、グループホームまで散歩に行っている。ホームの庭やベランダも周回できるため、外気浴や気分転換も兼ねて歩く方もいる。庭の菜園で収穫や、花壇に水やりをする方もいる。2月の初めには、満開の菜の花畑に車で出かけたり、近くの小高い畑の蔭の臺を摘みに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などは能力に応じて行っている。また、使用時も同様。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えたり、手紙のやりとりも自由にとれるような対応になっている。連絡したいが上手く伝えられない方などもあるので、気持ちを汲んだ対応をしていきたい。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の電球を用い、暖かみを装っている。また、リビングの壁に季節の切絵などを飾ったりしている。声・足音・テレビの音量、衛生面など「不快」を「快」にすることを常に意識して対応している。	居室を含めて25台の加湿器や、空気清浄機を設置し、感染症対策に努めている。1階のリビングには床暖房を施している。2階は日当たりがとても良く暖かい。5S活動の一環で居室担当者が毎月共有部分も含め、1か月の掃除計画を立て、利用者も手伝って掃除をしている。テレビの音量や話声の大きさにも考慮している。リビングの飾りつけは利用者も協力して毎月変えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなくソファをおいたり、リビングよりあえて見えにくい場所を何か所か設け、活用して頂いている。談話コーナーの有用性などを考えていきたい。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、使い慣れたもの・愛着のあるものを持ってきていただき、且つ混乱しない事が「家」として重要な要素であることを説明しながら、工夫している。より過ごしやすいよう衛生面、整理整頓に努めていく。	ユニットごとに和室6室と洋室3室があり、ベッド、エアコン、クローゼット、電話線、テレビ線を備えている。仏壇を持ち込んでいる方は、水やお花等を供えている。自画像を飾ったり、観葉植物を部屋に置き楽しんでいる方もいる。利用者は居室で好きなテレビドラマを見たり、持参のリクライニングのソファでくつろいだりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極端な施錠などは一切行わず、能力に応じた安全配慮を行っている。また、身体の障害に適したバリアフリー構造・場所が分からない方に対し目印をしたり工夫を行っている。		

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
ユニット名	やまと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より地域に根付いたグループホーム運営を心がけており、近所やボランティアの方々とのお付き合い、行政との積極的な連携をおこなっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、例年は年中行事に参加している。また、運営推進会議や、地域ケア会議などで、地域の現状と課題および相互扶助の関係性を把握している。今年度も感染症対策で町内会催しにほとんど参加できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	都筑区にある認知症サポート連絡会の会員として、認知症に関する普及・啓発に積極的に努めている。また、運営推進会議でも様々な取り組みを報告し、地域へ発信する努力をしている。自治体の認知症関連研修講師などもおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より豊富なアイデアをいただき、自事業所のサービスに反映したり、地域への認知症の普及啓発へ繋げたりしている。今年度も書面開催となり、意見が出にくくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポート連絡会などで密に連携を取り合い、事業所だけでなく地域単位で認知症に関するさまざまな取組みをおこなっている。自治体の認知症関連研修講師などもおこなっている。横浜市認知症施策検討委員会に職員2名参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しない取組みを積極的におこなっている。また、常に会議などで理念に基づき話し合いを持っている。3か月に1度高齢者虐待・身体拘束廃止委員会を開催している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、内部では職員会議、事故報告書などで常に虐待に繋がらないような話し合いをもっている。職員間のチームワークを大事にしている。3か月に1度高齢者虐待・身体拘束廃止委員会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念にうたっている通り、個人の権利を常に大切にしながら、職員会議で話し合いを持ち、ケアに反映している。定期的に研修会にも参加している。法人でも入職3年目までの職員に緊急時対応の研修をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接の際、内容の改定の際には、必ず説明し、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の様々な意見などについて迅速に対応したり、運営推進会議にも参加していただいている。ご家族は面会時・家族とのカンファレンスの際などに意見を伺い、運営に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画作成担当者会議、職員会議の場で多くの意見を共有できる機会を作っている。法人の会議に職員会議の意見を報告したりしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年次目標に向けての日々の勤務態度などを面接、合同職員会議を通じて把握している。福利厚生などにも力を入れている。人事評価制度を導入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には可能な限り参加できるようにしている。例年は自施設でも全体職員会議などを実施しているが、今年度も感染症対策できていない。代わりに職員会議を活用するようにしている。今年度より計画作成担当者補佐を配置し、左記に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や横浜グループホーム連絡会のブロック会などに参加する機会を設けており、地域における同業者などとの良好な関係性の構築に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、入居後も細かい観察などよりご本人の状態をしっかり把握し、住みよい居場所作りを心がけている。可能な限り複数の職員での面接を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、ご家族の意向などもしっかり伺うように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接と入居時の状態を踏まえ、早期に生活に慣れていただく事を主眼にケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意欲や可能性などを把握、信頼し、支え合いで暮らしの構築を意識している。職員主導で生活を構築しないよう、利用者の声をより聴いていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と面会や家族カンファレンス、行事の際など多くのコミュニケーションをとるようにして、利用者を中心として支え合う体制を心掛けている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、外出、外泊などを積極的に推進しているが、感染症対策で叶わないことが増えている。玄関・窓越し・オンライン面会を推進している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の暮らしにおける支え合いの場面が増えている。職員は状況をみながら関係性構築のフォローをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙などのやりとりで関係性が継続していたり、電話での介護相談、新規入居希望者の相談などを受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基に職員間・ご本人・ご家族で話し合いを持ち、本人本位の視点のケアプラン作成を心掛けて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりバックグラウンドシートを記してもらい、それを基に、継続的なケアを心がけている。入居前に介護サービスを利用されていた方はケアマネに情報提供依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジメントの流れを大切にして、日々の暮らしを支えながら、状態の把握にも努め、新しい発見などを申し送りや会議で次につなげるようにしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメントの流れの中で本人や家族との話し合い、職員同士との話し合いの機会を作っており、意見を共有した中でのケアプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に力を入れ、誰が見ても状態が把握できるようになっている。また、ケアプランの見直しの際にも大変有効的である。ケアアプリの導入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、様々な社会資源を紹介したり、多世代交流の時間を大切にしたり常に工夫をしている。ニーズに応じたボランティアなどの導入を実施している。感染症対策のため、出来ないことが増えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前より通っている病院受診など継続しているが、感染症対策のため、叶わないことが増えている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より主治医に関する確認をとっており、ご本人やご家族の希望に沿っている。日頃のケアの気づきなどの情報提供などを随時おこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で契約している看護師や診療所の看護師と日頃より連携を持ち対応している。また、24時間のオンコール体制もとっている。より密な連携をとれるよう、情報共有の仕組みなどを検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、入居時の状態を把握していただくよう配慮している。また、入院後は定期的に病状の説明を依頼したり、面会を密におこない、状態を把握し早期の退院につながるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より条件が整えば看取りまでおこなうことを説明しており、終末期においては主治医を含め方向性を定め、多職種連携もおこなっている。継続して方針の共有、課題の抽出に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を作ったり、マニュアルなどを作成し、事例検討を含め、会議で確認するなどの対応をし、実践につなげている。法人でも入職3年目までの職員に緊急時対応の研修をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、昼夜想定での避難訓練を実施。法人の災害対策委員会で自然災害に対するマニュアルなどを作成し、シェイクアウト訓練なども実施している。感染症対策の観点より避難訓練に運営推進会議委員などは参加できていないが、訓練を実施した報告はしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、また言葉による虐待などにも配慮しながら対応をおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を伺い、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、アセスメントなど「できること・わかること」も把握し、意欲を引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを基に、個々人の生活リズムを大切にしながら充実した生活を送れるよう対応している。職員主導で生活を構築しないよう、利用者の声をより聴いていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を意識し、また整容する効果で、利用者の方が生き活きとされることを大切にしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前より嗜好調査をおこない、入居後も観察をしたり、利用者に伺いながら配慮している。毎日は難しいが、誕生会などで好きな物を食べていただく工夫をしている。調理などがお好きな方は積極的に台所に入れるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日チェックしている。個別の食形態に配慮している。献立は外部業者に委託。必要に応じ、高カロリーの栄養剤なども導入。水分摂取量はチェックが必要な方を対象に実施し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じた支援をおこなったり、訪問歯科診療のアドバイスなども受けながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用い、個々人の状態を把握して出来るだけ失敗による不快や自尊心低下の防止・生活保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動など便秘に対して有用で生活の中で工夫できる事を多く取り入れている。看護師のアドバイスなども組み込んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、のんびりと入浴して頂く事を心掛けている。曜日・時間帯の配慮まではなかなか出来ていないのが現状である。安全面で福祉機器などの導入も検討も随時している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にのんびりとした時間を作ったりしている。安眠できるように午前中の日光浴などを心がけている。また適宜個別に昼寝などもおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用は、医療従事者に判断をあおぎ、観察に努めている。薬の内容や服用後の観察は適切におこなえるよう対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを基に、ご本人の意欲向上につながる取り組みを日々おこなっている。個別や集団で楽しんだり、役割を担っていただいたりしている。感染症対策のため、叶わないことが増えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のアクティビティなどおこなっているが、感染症対策のため、叶わないことが増えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などは能力に応じて行っている。また、使用時も同様。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えたり、手紙のやりとりも自由にとれるような対応になっている。連絡したいが上手く伝えられない方などもいるはずなので、気持ちを汲んだ対応をしていきたい。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の電球を用い、暖かみを装っている。また、リビングの壁に季節の切絵などを飾ったりしている。声・足音・テレビの音量など「不快」を「快」にすることを常に意識して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなくソファをおいたり、リビングよりあえて見えにくい場所を何か所か設け、活用して頂いている。多目的室の有用性などを考えていきたい。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、使い慣れたもの・愛着のあるものを持ってきていただき、且つ混乱しない事が「家」として重要な要素であることを説明しながら、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極端な施錠などは一切行わず、能力に応じた安全配慮を行っている。また、身体障害に適したバリアフリー構造・場所が分からない方に対し目印をしたりの工夫を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
作成日	令和4年4月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員個々人の介護知識・技術・態度などに差があるので、個々人に応じた人材育成をしていきたい。 ※昨年度より継続。	O J T（職場内研修）の体制を整え、個々人のスキルアップをはかる。	年間目標に基づき、介護現場での直接指導、定期的面接、勉強会などを実施していく。	1年
2	10	自分の暮らしにおける希望などを言われる入居者が増えている。	入居者の意向を聴く機会を多く作り、希望を叶える。	職員会議に参加していただく形や入居者の意向を聴く機会を作っていく。	1年
3	13 52	5 S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を昨年度より継続して取り組んでいく。 ※昨年度より継続。	ご入居の皆様が安心して暮らせ、職員も働きやすい環境作りに取り組む。	年間の5 S活動についてのマニュアルなどを整備していく。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。